

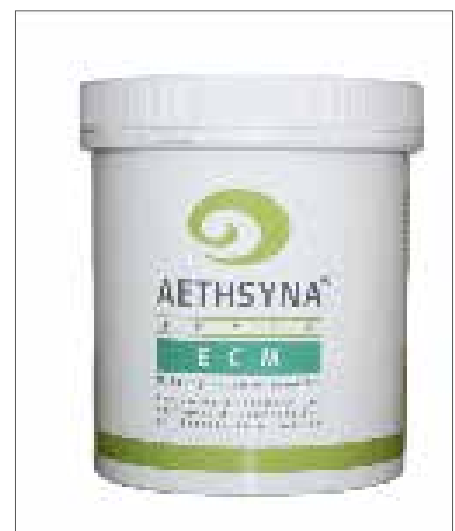
## 重金属の排出

栄養サプリメントエトシナフィットECMによる、血液中及び尿中の重金属排出に関する科学的調査



レヨネックス バイオメディカル有限会社は、すでに30年以上、パウル・シュミット式バイオレゾナンスの原因志向のトリートメント方法を追求しています。この方法は、今では世界の39か国で使われています。パウル・シュミット式バイオレゾナンスは、周波数を使って自己調整を刺激することができる、ということを発端としています。太陽の光が周波数スペクトルとして、私たちの体内でビタミンDや色素などの生成を刺激することができるように、パウル・シュミット式バイオレゾナンスの考えでは、ほかにも多くの周波数と、それにかかわる調整領域があるのです。しかしパウル・シュミット式バイオレゾナンスは、トリートメントに使われるだけではありません。エネルギーティックの分析にも使われるのです。伝統的な西洋医学は、この方法を認めていませんが、パウル・シュミット式バイオレゾナンスは、栄養サプリメントの物質的な性質と並んで、そのエネルギーティックの性質も評価します。レヨベース、レヨフローラ、レヨビタ、エトシナフィットECM、そしてレヨソール プラスは、この原理にのっとなって誕生したのです。パウル・シュミット式バイオレゾナンスのような原因志向のトリートメントというコンセプトでは、もちろん栄養に関するコンセプトもなくはなりません。ミネラル物質、微量元素といったものが欠乏していることが、多くの疾患の原因でありうるからです。欠乏というのは一面ではありますが、体内にある種の物質が多すぎるとなると、これはどうなるのでしょうか。たとえば重金属です。ここでもパウル・シュミット式バイオレゾナンスは、エネルギーティックの分析による解決策を与えてくれます。一つにはエネルギーティックテストで、どのような有害物質が体内にあるか、そしてこの負担が強いかわ弱いかを見ることができます。有害物質の基本周波数は、パウル・シュミット式バイオレゾナンス、あるいはRAH(レヨネックス分析・ハーモナイズシステム)では知られているので、体のエネルギーティック分析が可能であるだけでなく、こうした有害物質を排出するのを助けてくれる栄養サプリメントを、開発することも可能なのです。もちろんこうした言葉は、非常に懐疑的に扱う必要があります。今まではその証明がなかったからです。

その理由から、パウル・シュミット式バイオレゾナンスとレヨコンプ PS1000ポラーを使って、エネルギーティックの方法でクライアントを検査し、彼らがどのくらい重金属による負担を受けているかが調べられました。その計測結果で最も大きな負担を受けていたクライアントの、尿と血液が採取されました。ガンツイムン試験所(GANZIMMUN Diagnostics AG, Mainz)で、その尿と血液中にある、よく見られる重金属を測定したのです。そのテストの後三か月間、エトシナフィットECMを栄養サプリメントとして与えました。三か月後に、最初に測定した値を、すべてもう一度計ったのです。左の写真が、栄養サプリメントのエトシナフィットECMです。



以下に試験所で計測した、34歳の女性の一連の値を表示します。



図1 (左から:鉛/血液 ニッケル/血液 カドミウム/血液 水銀/血液)

図1では、鉛、ニッケル、カドミウム、水銀という重金属の濃度が、パウル・シュミット式バイオレゾナンスを使って開発された栄養サプリメントであるエトシナフィットECMを摂取する前と後で、血液中でどのくらい高いかを、例としてみるすることができます。

非常によくわかるのは、鉛、ニッケル、水銀の血液中の濃度が、エトシナフィットECMという栄養サプリメントを摂取したのちに、下がったことです。水銀の負担が最も下がりました。

この女性の場合、カドミウムの負担はもともと非常に低く、レベルが変わりませんでした。



図2 (コバルト/尿 鉛/尿 クロム/尿)

図2では、尿中のコバルト、鉛、クロムの濃度が、パウル・シュミット式バイオレゾナンスで開発された栄養サプリメントのエトシナフィットECMを摂取する前と後で、どのくらい高いかが、例としてみるすることができます。

ここでは逆の効果が見られます。栄養サプリメントのエトシナフィットECMを摂取した後、尿中の重金属の濃度が非常に高くなっているのが見つかりました。試験所の検査では、以下の有害物質が調べられました：

1. 鉛
2. ニッケル
3. カドミウム
4. 水銀
5. 銅
6. ヒ素
7. 亜鉛

8. パラジウム
9. 錫
10. アルミニウム
11. コバルト
12. クロム

すべての有害物質に関して、血液及び尿の検査で、同じ効果がみられたのです。

## 結論

最初にはっきりさせておきたいのは、この女性がパウル・シュミット式バイオレゾナンス、つまりエネルギーティックの方式で、試験所での検査のために前もって選ばれたということです。この女性は試験所での検査の結果、グラフで見られる通り、実際に重金属の負担が高いことが分かりました。パウル・シュミット式バイオレゾナンスを使った重金属テストの結果はすなわち、試験所における結果と相関関係にあるのです。

面白いのは、栄養サプリメントのエトシナフィットECMを摂取する前には、血液中の重金属の濃度は高く、尿中ではどちらかというと低かったことです。三か月の摂取の後、血液中の有害物質濃度は、逆に低くなりました。その三か月の後にはしかし、尿中の有害物質濃度は上がったのです。これは大変良いことです。なぜなら、有害物質が尿中に増えれば増えるほど、体内からは出ていくということだからです。

検査した12の有害物質すべてで、同じような効果が観察されました。このことは、特定の有害物質を排出することではなく、有害物質を全般的に排出することが可能だということを示唆しています。

栄養サプリメントのエトシナフィットECMは、パウル・シュミット式バイオレゾナンスの原理を使って開発されたものなのです。こうした実際の使用例を観察するとわかる素晴らしい結果は、栄養サプリメントを物質的観点からだけでなく、エネルギーティックの観点からも開発することが役に立つということを示してくれるのです。

パウル・シュミット式バイオレゾナンスに関する、またエネルギーティックにみて最良の栄養サプリメントの開発に関する詳しい情報は(量子物理学の観点から、パウル・シュミット式バイオレゾナンスは、すべての物質は最終的には振動から成り立っていると考えています)、Prof. ディートマー・ハイメスの基本文献でお読みになれます。



重要な指摘:

この方法を使用して行った観察において、パウル・シュミット式バイオレゾナンスに関して述べたことは、エネルギーティックの観察方法によるものであり、西洋医学の見方と混同されてはなりません。パウル・シュミット式バイオレゾナンスは、経験医学の領域に入るものです。西洋医学は今まで、バイオエネルギーティックの振動による効果を受け入れておらず、認めていません。ここに述べたことはそのため、部分的には科学の現況を大幅に超えています。具体的な疾患のケースにおいて、このように観察することで、医師や療法士の代替とすることはできません。いつも個々のケースの状況によるのです。

ですからこうした使用観察は、それぞれのクライアントをそれぞれに検査し、トリートメントを行うことの代替とはならないのです。またここで観察されたことが、いつも必ず当てはまる、という印象を与える意図はありません。また病気が治るという約束もしません。

Prof. ディートマー・ハイメス